

循環型社会技術システム研究センター研究成果報告書発刊にあたって  
循環型社会技術システム研究センター長  
八戸工業大学 学長 庄谷 征美

八戸工業大学は昭和47年に開学し、今年で37年目を迎えています。文部省への設置申請にあたり、青森県には4年制大学の工学部がないこと、八戸市は新産都市の拠点であり、むつ小川原地域の開発が国家的事業として展開される嚆矢ともなる、という事で地域貢献への期待が大きかったことを示しています。3学科の工科部単科大学としてスタートした本学も、大学院工学研究科博士前期・後期課程4専攻、2学部7学科を擁する大学に成長しています。

さて、青森・岩手県境の産業廃棄物不法投棄問題は、国内最大級の規模であり、環境汚染の可能性、景観破壊、地域住民の不安助長、青森県南の“水がめ”である馬淵川水系への影響など、多くの問題を提起しています。地元大学として、八戸工業学が果たすべき役割は大きいと考え、培ってきた工学的・人文社会的な知見を更に発展させ、問題の解決と地元支援を行う必要がありました。一方、従来の廃棄物処理は焼却と埋立てが主体であり、エネルギーの浪費、温室効果ガスの大量発生、有害物質漏洩による二次汚染などの問題が存在します。これらの諸問題を総合的に解決するために、環境への影響が少ない廃棄物処理処分技術・システムを開発研究し、真の循環型社会を作り上げることが喫緊の要事となってきました。

このことから本学では、平成15年度文部科学省ハイテク・リサーチ・センター整備事業へ申請し認可を受けました。同時に「循環型社会技術システム研究センター」を設立し、「青森・岩手県境不法投棄廃棄物の低環境影響処理技術に関する研究開発」のプロジェクト研究を進めてきましたが、平成20年3月を以って、5年間の研究を満了致しました。当研究センターでは、青森県、田子町、八戸地域の協議会・委員会や各行政担当部署と常に連携して研究を実施してきましたが、特に、青森県が実施している原状回復事業の進展に大きく貢献できたと考えています。

ここに、研究成果を最終報告書として取纏めましたのでご報告致します。研究組織として3研究班の環境モニタリング、廃棄物の再資源化研究、循環型社会技術システム構築の研究成果には、当地の課題解決だけでなく、今後の不法投棄廃棄物の処理・対策に有用な新しい多くの知見が盛り込まれています。

研究を実施するに当たり事業助成を頂いた文部科学省、処理事業実施の当事者である青森県を始め、不法投棄現地である田子町や八戸市のご協力に、深甚より感謝申し上げます。終わりに、本学に対し今後とも、従前同様のご指導をお願い申し上げ、発刊の挨拶と致します。

